

咽頭結膜熱の流行について(注意喚起)

当県では、咽頭結膜熱の流行について令和5年10月12日に県下全域を対象とした警報を発表し、その後も発生動向を注視してきました。

これまでの間、警報開始基準値(3人)に迫る高い水準の報告が続いている保健所管内があった状況なども踏まえ、警報は現在も継続して発表していたところです。しかし、令和6年第21週において、石巻保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が4.33人となるなど、患者報告数の増加が確認されています。

これからの時期は例年、県内全域において流行が拡大する可能性がありますので、発熱や喉の痛み等の症状のある場合は、家族や周りの方へうつさないように、下記の予防を徹底しましょう。

～咽頭結膜熱(プール熱)とは～

アデノウイルスが原因の感染症で、主な症状は発熱、喉の痛み、結膜炎等で、3～5日程度続きます。小児(特に5歳以下)の発生が多く、特に生後14日以内の新生児が感染した場合は、重症化することがありますので、早めの受診が大切です。潜伏期間は5～7日です。感染経路は、咳やくしゃみによって感染する飛沫感染、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。

通常夏期に地域全体で流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成しますが、近年冬季にも流行が見られています。

咽頭結膜熱には、特別な治療法はなく、基本的には対症療法(症状を和らげる治療)を行います。

～咽頭結膜熱(プール熱)の予防～

- 1 食事の前や排泄後、おむつ交換の後などは、石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 家族や身近な方が感染した場合は、タオルなどの共用を避けましょう。
- 3 「咳エチケット」を実施しましょう。
 - ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。また、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う。
 - ・咳やくしゃみが出るときはマスクをする。

- 患者報告数(第21週:令和6年5月20日～5月26日)
石巻保健所管内における1定点医療機関当たり患者報告数:4.33人
宮城県内における1定点医療機関当たり患者報告数:0.91

- 参考となるホームページ
厚生労働省「咽頭結膜熱について」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou17/01.html>
国立感染症研究所「咽頭結膜熱とは」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/adenopfc.html>
宮城県結核・感染症情報センター
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>

宮城県における1定点医療機関当たりの咽頭結膜熱患者報告数

